

在宅医療・介護連携のための情報共有ツールの作成について（案）

1 趣旨・目的

在宅医療・介護の連携を推進する仕組みづくりや環境整備を目的として、情報共有の基盤となる「在宅医療・介護連携のための情報共有ツール」を作成し活用することで、効果的な連携が進むことを目指す。

2 検討の経過

呉市在宅医療と介護の連携に関するアンケート調査やヒアリングを行った結果、連携を円滑に進める上で一番の課題は「情報の共有」であるとの意見が多く挙げられた。特に、連絡窓口や連絡方法が分かりにくいことや、必要な情報の内容が統一されていないことにより、調整に時間を要する場面があるとの指摘があり、円滑な情報共有を図るための仕組みづくりや連絡体制の整備が求められる。一方で、医療機関ごとに病院機能や業務体制等が異なることから、入退院支援や情報共有の方法を標準化することは難しいという意見もあり、関係機関の実態に即した調整・検討が必要である。

3 取組の方向性

これまでの検討経過を踏まえ、まずは医療機関と介護関係者の間で基本的な連絡体制を共有するため、医療機関および介護事業所の連絡窓口や連絡方法を整理した一覧を作成する。また、病院および有床診療所については、入退院支援の流れについて整理し、医療機関の実態に即した形で掲載する。

4 ツールの内容

- (1) 連携窓口・連絡方法一覧
- (2) 入退院支援の流れ（病院・有床診療所のみ掲載）

〈主な掲載内容〉

- ・医療機関・介護事業所の基本情報
- ・連携窓口・連絡先
- ・連絡方法（ファーストコンタクト）
- ・連絡が可能な時間帯（つながりやすい時間帯）
- ・入院時・退院時の情報提供方法
- ・退院前カンファレンスの調整・実施方法
- ・オンラインカンファレンスの調整・実施方法
- ・転院時の対応
- ・連携上の留意点・要望
- ・入退院支援の流れ（病院・有床診療所のみ掲載）
- ・その他

5 期待される効果

- (1) 連携窓口の明確化による連絡調整の時間短縮
- (2) 情報共有の効率化
- (3) 入退院支援の早期開始・円滑化
- (4) 連携の見える化による多職種連携の質向上

6 進め方

地域の実情に即したツールにするため、包括的支援推進員と協働で行う。

(1) 現場ヒアリング

医療機関および介護事業所に対し、連携上の課題や情報共有の実態についてヒアリングを実施する。

(2) ツール案の作成

ヒアリング結果を踏まえ、医療機関や介護事業所の基本情報や連携窓口、入退院支援の流れ等を整理した一覧形式のツール案を作成する。

(3) 在宅医療・介護連携推進検討委員会にて協議

作成したツール案について協議し、意見を踏まえて修正する。

(4) 関係機関への周知・活用

完成したツールについては、医療機関および介護事業所へ周知し、日常の連絡調整や入退院支援の場面で活用してもらうことで、地域における医療・介護連携の強化を図る。また、運用状況や関係者からの意見を踏まえ、必要に応じて内容の見直しを行う。

7 委員に伺いたい視点

(1) ツールの掲載内容について

例)

- ・連絡窓口・連絡方法の一覧に掲載すべき項目
- ・現場で活用するために必要と思われる情報 など

(2) 現場で活用できるツールにするための視点

例)

- ・紙・データのどちらが使いやすいか
- ・更新方法や管理方法について など